# 地域との交流から
# 札幌国際センター・帯広国際センターの行事

## 奮闘、研修員チーム
## ～読売杯北海道155ミニバレー大会

1月21日（土）、22日（日）に札幌市南区体育館などで開催された、第12回読売杯155ミニバレー大会（主催：読売新聞北海道支社、（財）札幌市スポーツ振興事業団、北海道ミニバレー協会）に札幌国際センターに滞在中の研修員チームが参加して、熱戦を繰り広げた。

この大会は一般男子・女子、混成などの部に分かれて行われるが、札幌国際センターからは12カ国18名の研修員と応援の職員が6チームを編成して「インターナショナルの部」に出場。コートを縦横無尽に駆け回り、白球を巡って連発される好プレーの数々に会場は大いに盛り上がった。予選リーグを勝ち抜いた4チームが決勝トーナメントに進み、惜しくも優勝はのがしたものの研修員チームは準優勝と第3位を占め、最後はインターナショナルの部出場者全員で記念写真を撮って、熱闘のひとときを思い出に残した。

ミニバレーは1972年に十勝の大樹町でバレーボールをもとにして生まれ、手軽に楽しめるレクリエーションスポーツとして全国的に愛好者を増やし、最近では競技としての人気も高く、各地で大会が開かれている。

（注：大会名の「155」はネットの高さ155センチと、コート上でプレイする選手4人の合計年齢155才を区切りとすることにちなんでいる。一般の部は155歳未満、以上と2部ある）

緑のゼッケンは北海道南米・サハリン研修員、JICA研修員と道海外協会留学生の混成チーム。頑張りました

インターナショナルの部に参加した全員で記念撮影

## 日本のお正月を楽しもう
## 帯広市国際親善交流市民の会主催

1月9日（月・祝）、「日本のお正月を体験してもらおう」と帯広市国際親善交流市民の会が主催した。帯広国際センターに隣接する森の交流館にはJICA研修員、市内のAFS留学生、市民の会会員など約90名が集い「お正月」を楽しみ、参加者同士が交流した。

当日は午前10時、帯広北高等学校や帯広レッドダイヤモンズなどの3チームによるチアチームの華やかなアトラクションに始まり、カルタ取り、福笑い、羽子板など日本のお正月の伝統的な遊びを楽しんだ。

また、研修員たちは持ち慣れない杵を手に会員の合いの手にあわせて餅つきに挑戦して、つき上がった餅は昼食にお汁粉や安倍川餅にして味わった。昼食のテーブルにはちらし寿司、うま煮、甘酒など日本の伝統的な料理も並べられて味覚でも日本のお正月を体験した。

明るく元気に開幕。帯広北高等学校チアチームの演技

重い杵にリズムも狂います

平仮名を目印に特別製のいろはがるたを探す

福笑い。可笑しくって…

# NRCニュース

## 鼎談～北海道海外技術研修員に聞く

**北方圏センターが北海道からの委託を受けて実施している「北海道海外研修員等受入事業」で来道した研修員5名が、まもなくそれぞれの研修を終えようとしています。今回は技術研修員の3名に、札幌での生活についての感想を聞きました。**

ー札幌に来る前はどんなイメージを持っていましたか？　それから、実際に来てみた、札幌はどんな感じですか？

田中ー来る前に友達から「すごく寒い」ことを聞かされていました。自分は寒がりなのに、札幌に行くことになってどうしようと思いました。

山田ー夏は最高でした。反対に、冬はものすごく寒くて、「生きていられない」と思ってしまうほどでした。でも、クリスマスの街はイルミネーションが輝いていてきれいでした。まさに「好きです札幌」ですね。

加藤ー町はクリーンですけど、ビューティフルさが足りないと思います。通りを歩いていても気分が盛り上がらないというか…。レストランが地下やビルのテナントに入っているのも変な感じがします。オープンカフェとか、通りがにぎやかになるようなものがあってもいいんじゃないかなと思います。華やいだものがないのは街中でも住宅街でも同じです。インテリアも暖かみに欠けるし、庭がないのも寂しい感じがします。

山田ーそれは、日本は土地が足りないからではないでしょうか。私はきれいで好きですけれどね。

田中ーレストランとかが地下にあるのは、冬の寒いときは便利だなと思いましたよ。それに北大の構内とか、町並みを散歩するのはとても気持ちがよいです。もしかすると、札幌は新しい町なので、歴史の深みが作る雰囲気が足りないせいじゃないのですか？

加藤ー実は自分でもうまく説明できないんです。誤解しないで欲しいのですが、日本や札幌は大好きなんですよ。

ー日本の人々と接した感想を教えてください。

三人ー日本という国の動き方といいますか、時間に正確なこと、人が礼儀正しいこと、安全なことには感心しました。これらはとても素晴らしいことだと思います。

三人ー逆に、本音と建て前を使い分けることには、あまり感心しませんね。陰口が多いのもどうかと…。お互いに意見を言い合わないと、誤解が多くなるのではないかと思います。

加藤ー日本とアルゼンチンを足せば、きっと良いのだと思いますね。

山田ーそれから、私は専門学校で研修を受けているのですが、授業中に学生が居眠りする光景は信じられませんでした。私の国でそんなことをしたらたちまち先生にたたき出されますし、そもそもありえません。

田中・加藤ーそうそう。

ーもっとお話を聞きたいのですが、時間になってしまいました。今回の研修はまもなく終わりますが、北海道での生活が実り多いものであったことを願っています。今日はどうもありがとうございました。

右：田中 香織カチアさん　ブラジル出身　研修分野：薬学
中央：山田 育さん　パラグアイ出身　研修分野：美容
左：加藤 佳理奈さん　アルゼンチン出身　研修分野：ホテル業

**（国際協力部）**